

こんなことあったよ！レポート

平成21年3月19日(木)

産学官研究交流会 のしろ市民まちづくりフォーラム編



年度末のためか例年より少なめでしたが約60人の参加者がありました。



会場外には木の香る道の模型(上)や段ボール製の木製ダム模型(右)など活動をPRするコーナーを設けました。



谷越衣久子さん (日南海岸地域シニアネットワーク推進協議会) 高橋重道さん (国土交通省東北地方整備局) 佐々木真信さん (秋田県立大学木材高度加工研究所)



植野芳彦さん (株長大) 小野田勝さん (高知県政策企画部) 山本茂博さん (兵庫県丹波県民局)

講師の方には、遠方からおいでいただいた甲斐あって、先進地の取り組みから学ぶことがたくさんありました。

3月19日(木)、能代キャッスルホテルで「のしろ市民まちづくりフォーラム」が開催されました。のしろ白神ネットワーク会長・能登さんの少し控えめの挨拶に続き、佐々木先生による木の香る道づくりと題した発表がありました。都市エリア事業の成果を風景街道事業で実現した事例や今後への提案などを写真やイメージ図で示してくれました。

また、木製ダムの取り組みが温暖化防止に関する全国大会で特別賞に輝いた報告もされ、今後の活動に夢を与えていただいたように思います。会場外にはウッドチップ舗装道の模型や木製プランターカバーなどの成果品も展示されており、参加者の理解が深まったようです。

国土交通省東北地方整備局の高橋課長さんは去年に引き続いての参加です。渡辺先生の熱心な誘いに負けて今回も来ましたとのこと。のしろ白神ネットワークの活動を評価するとともに、継続的な運動となるかが一番の心配であるとのこと。外部からの客観的な指摘は、まさに核心をついているように思います。

その後の講師3人のお話は、佐々木先生が示した夢をどう具現化していくか、また、各構成団体の活動を継続する上でも示唆に富む点が多かったと感じています。

宮崎県の谷越さんのお話は市民として、また女性事務局長の立場から、具体的でかつ説得力のある内容でした。多様な人たちがつながり担いあい、補うあう中で「全員が当事者だ」という仕組みづくりとリスクを負う覚悟、メリットの共有を強調していました。また、プロセスの共有を図りながら「俺(わたし)の出番を作り出す配慮」が大事だとのこと。

兵庫県の山本さんは丹波全域で進める「丹波の森構想」の実現を図る中で、風景街道事業をツールの一つとして活用した事例を報告してくれました。丹波県民局独自の予算を措置し、景観づくりを進める意気込みを感じました。市町村の負担を求めず、県民局が率先して市民との協働体制をつくったり、市民からの提案事業だけでなく行政からの提案の実現化施策など、さまざまな手法があると感じました。事業期間を設定することで、行政主導から市民の主体性が求められることになりました。



まちづくりに正解はなく、成功事例を視野に地域の事情や特徴を活かしながらチャレンジしていくしかないを再確認。



原田浩司さん
((財)秋田県木材加工推進機構)

司会の不手際から「亡き者」になりそうになった原田さん。これに懲りずにこれからも秋田・能代を宜しくお願いたします。



一次会が静かだったのは最初のみ。その後は質問や提案、まちづくりへの思いなどが長いこと熱く語られていました。



2次会もお店の方から「そろそろ閉店です」と言われるまで盛り上がりました。皆さん、お疲れ様でした。

高知県の小野田さんから紹介された高知人の県民性は、とても驚きでした。チャレンジ精神が旺盛で新しい物好き、何でも日本初を志向するなど、秋田で地域づくりに関わる人にとっては全員が衝撃を受けた発言だと思えます。県の公共施設建設は原則木造で。県が市町村の地域づくりを進める地域企画員制度を60名体制で敷いている。特別養護老人ホームの2階建て木造施設は特区を使って建設。まちづくり交付金、頑張る地方応援プログラム、新たな公によるコミュニティ創世支援モデル事業の活用など、補助金獲得4連敗の私や同じように苦労している佐々木・渡辺両先生にとってもよだれが出そうな内容でした。

ただ、大学が地域づくりの事務局をやっているのしろ白神ネットワークがうらやましいとの発言に、自分たちが恵まれている環境にあることを感謝したいと思いました。

休憩後は、植野さんをコーディネーターにパネルディスカッションです。特に活動資金の確保と女性の活動についての状況を聞きましたが、それぞれの立場や環境も違うので回答もまちまちでした。谷越さんの、女性ゆえに関係者間の接着剤や緩衝材の役割に有利なこと、行政職員に対し批判するのではなく相談することで巻き込んでいく手法、否応なしに連携するような仕掛け（否応串刺し連携）は、かなり参考になったと思います。

最後に（財）秋田県木材加工推進機構の原田さんから閉会の挨拶がありました。司会のうっかりから危うく出番がなくなるところでしたが、会場の雰囲気や和らぎ、思いがけない演出となりました。「高知は金がないから知恵を使うが、秋田は金がないから何もやらない」というまとめは、身につまされます。その後の懇親会でも原田さんの毒舌は続きましたが、お陰で大いに盛り上がりました。3月で秋田から遠ざかるのが残念です。

懇親会の乾杯は能代河川国道事務所の吉永所長で、風景街道事業団体同士の姉妹街道の提案。フォーラムの最後で植野さんも提案しており、途中退場でそれを知らない吉永所長の言葉に皆さんも改めて同感。結局2次会の最後で4団体の連携を約束。次はみんなで宮崎にと盛り上がりましたが、積み立ての許可が得られるかちょっと心配です。懇親会では山本さんの行政マンとしての高い政策立案能力、小野田さんの「県庁の星」と言われるほど市民の目線に立った仕掛けや柔軟な発想に感心しました。そして谷越さんとは、同じ雑誌を読んでいることが分かり、ちょっと感激。

これまで落ち込むことの多い毎日でしたが、徐々にパワーをいただきました。フォーラムを準備された皆様、本当にお疲れさまでした。

文：佐々木松夫